

牛久：学校周辺に見る自然

第41号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年11月3日発行

＜ 秋のみずべ公園 ～ 動物の観察ついでに写した植物たち ＞

こんにちは。今回は、ひたち野うしく小の子たちとの動物観察のついでにうっ写しておいた植物たちです。



上、左からカタバミ、ツユクサ、イボクサ。
中左からハッカ、アキノノゲシ、オオバコ、ケチヂミザサ。
下、左からカナムグラ、イシミカワ。

まずは草から。上の写真が昔から日本にある草で、下が外国からやって来たもの(帰化植物といいます)ですが、ここにはないブタナやセイタカアワダチソウなども含め、毎年少しずつ帰化植物が増えていきます。少しずつといっても、たとえば5年前とくらべれば大きく違ってきます。



左からハクチョウソウ、アレチヌスビトハギ、マメアサガオ。いずれも北米原産。

けいぞく 継続して観察し、きろく 記録することで変化を読み取ることが大切でしょう。皆さんの力にかかっています。



コナラのどんぐり(左)と季節はずれの雄花(おばな)。



シラカシのどんぐり(左)とふたごのどんぐり(右)。



アラカシのどんぐり(左)とそのアップ(右)。

続いて樹木から、どんぐりのなる木。みずべ公園にはこのほかに、クヌギの木があります。どんぐりはアカネズミなどが集めてかくしておいて、冬の間、それを食べるといわれています。そして、食べ残したりかくし忘れたものが発芽して、その分布を広げるのだそうです。

次は、鳥が実を食べて運ばれ、糞としてその種子がまかれることで分布を広げる樹木たち。下はコブシ。へんな形ですね。花の中心にたくさんの雌しべが並んでいて、受精できたものだけがふくらむのでこんな形になるようです。赤い種子は糸をのばしてぶら下がり、鳥を誘います。



9/16 のコブシの実(左)と、熟した10/20の実(右)。



上、左からエノキ、アキグミ。中、左からゴンズイ、クサギ。下、左からコムラサキ、エゴノキ。

公園内には、鳥の好きな木の実がたくさんあります。だいたいどれも上のように赤や青、むらさきなど鳥の目を引くおいしそうな色をしています。右下のエゴノキの実はそうは見えないって？^{じゆくかわ} 熟すと皮がはがれて中のかたくて茶色い種子^{しゆし}が顔を出しますが、サポニンという殺虫成分のためかむとエゴいのでこの名がつけました。他の鳥は食べませんが、そよかぜ学級の皆さんと見つけたヤマガラだけはこれを食べ、一部は土にうめてかくすなどします。それでどんぐり同様、分布を広げられるというわけです。

最後に、本来^{ほんらい}5月ころの花なのに今ごろ咲いていたエゴノキとサツキ。木の種類^{しゆるい}によっては台風などで葉が落ちたり、^{あたた}暖かい日が続いたりすると季節^{きせつ}はずれに咲くことがあります。校庭のアーモンドや市内各地のスモモ、^{けいさつしよ}警察署前の坂道^{さかみち}ぞいのヤマボウシなども、今年も秋に咲いていました。狂い咲きなどとよばれることもあります。木が狂ったわけではなくまわりの環境^{かんきやう}を受けて咲くのだからと、私が以前参加^{さんか}していた樹木観察^{じゆもくかんさつ}の会では「異季咲き」とよぶようにしていました。

【理科支援員：宮内】



エゴノキ(左)とサツキ(右)、季節はずれの開花。